る工夫をした。

これに用ゐる器械は圖の如き四乃至五耗の徑を有する管であつて、先端から約十五耗のところに軽い彎曲があつて、子宮腔の前屈して居る正常状態に適合し、その先端は鈍い圓錐形になつて狭い子宮口を通過し易い。この先端の下に長方形の孔があつて掻き取つた組織を受け容れるやうになつて居り、その孔の前端は刃を具へて組織を掻き去るやうになつて居る。この消息子狀の器械が挿入せられた度合を知る爲に先端から七耗を距てたところに浅い線が刻んである。また器械の前面を知らせる爲に把柄の前面に三本の僅に窪んだ横走の線がある。

この器械の使用法は腔鏡を用ゐて子宮腔部に鉤を掛けて子宮消息子を使用する如くに子宮腔内に徐々に挿入して、先端が子宮底に達したときに把柄を少し下げて子宮壁を擦過して引き出す。それで子宮前壁の組織が長方形の孔の中に受容せられる。それを取り出して適法に處置して検査する。

この方法を多數の外來患者に用ゐたが、少時間を経て消散する程度の苦痛を認めることがある位で、著しい苦痛は認めなかつた。出血は殆どなかつたが、若しあつても甚少量であつた。併發した

り續發する障礙は少しも認めなかつた。周期も妨のあつたことはない。若しこの器械を用ゐて何か障礙を起したならば、主として不適當な應用によるものである。悪性新生物の疑のある場合には全然用ゐてはならぬが、その他の場合にはただ診査の爲に組織片を取出すだけの目的には應用し得られる。
(木下抄)

腰掛式患者用運搬用擔架

Birkenfeld 述(Chirurg. Heft 8, S. 320, 1937.)

次に述ぶる擔架は丈夫な帆布製坐臺 e ミニケの蹄係狀をなす肩掛帶 a b よりなり、更に肩掛帶の後部には環狀帶 c が裝著されて居り、此れは「ビチャウ」により患者の體格に應じて背部を擔架より墜落しない様に緊縛し得る様になつて居る、又兩肩掛帶 a b は「ビチャウ」 d により運搬者の身長に應じその長さを調節し得る様になつて居る。此の擔架は運搬者は兩手を放したるまゝでも運搬出来るのが利點である。

製造所。Heinrich Hafner, München 19, Ysenburgstr. 12.

(野崎抄)